

「防災地理情報の利用に関する調査」 に関するアンケート調査結果

国土交通省 国土地理院
応用地理部
令和6年2月

「防災地理情報の利用に関する調査」に関するアンケートの集計結果を取りまとめましたので、ご報告いたします。

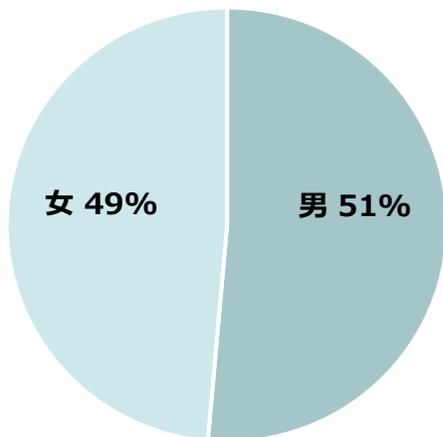
今回の調査結果は、国土地理院が提供する防災地理情報の認知度や皆様の日頃の活用状況を把握し、今後の施策を検討するための基礎資料として活用させていただきます。

調査にご協力いただきましたモニターの皆様には深く感謝申し上げます。

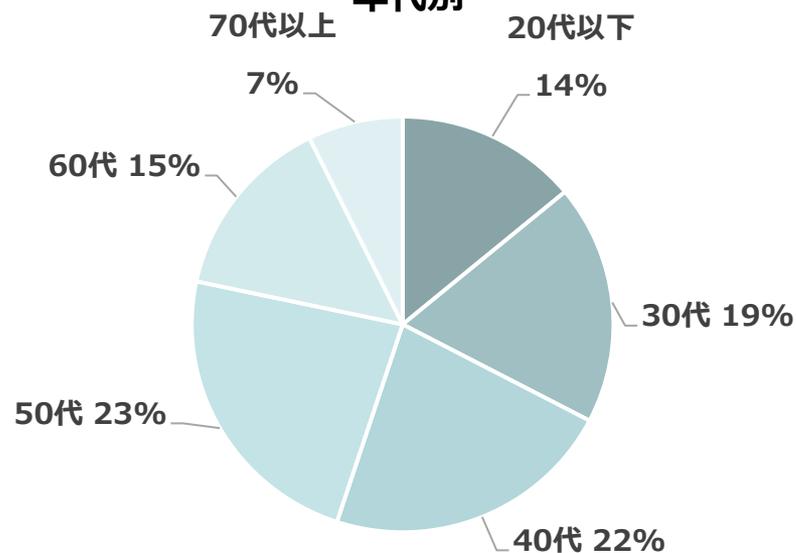
| | |
|-------------|----------------------|
| <u>調査期間</u> | 令和5年11月22日から12月12日まで |
| <u>対象者数</u> | 1,071名 |
| <u>回答者数</u> | 979名 |
| <u>回答率</u> | 91.4% |

ご協力ありがとうございました。

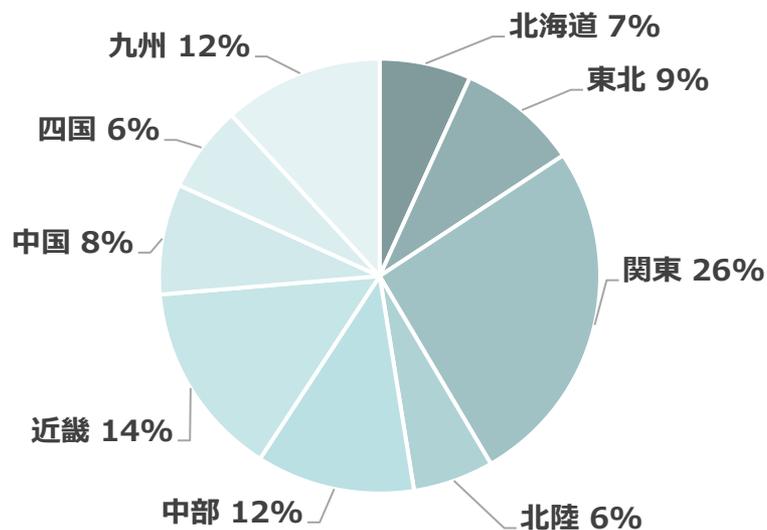
性別



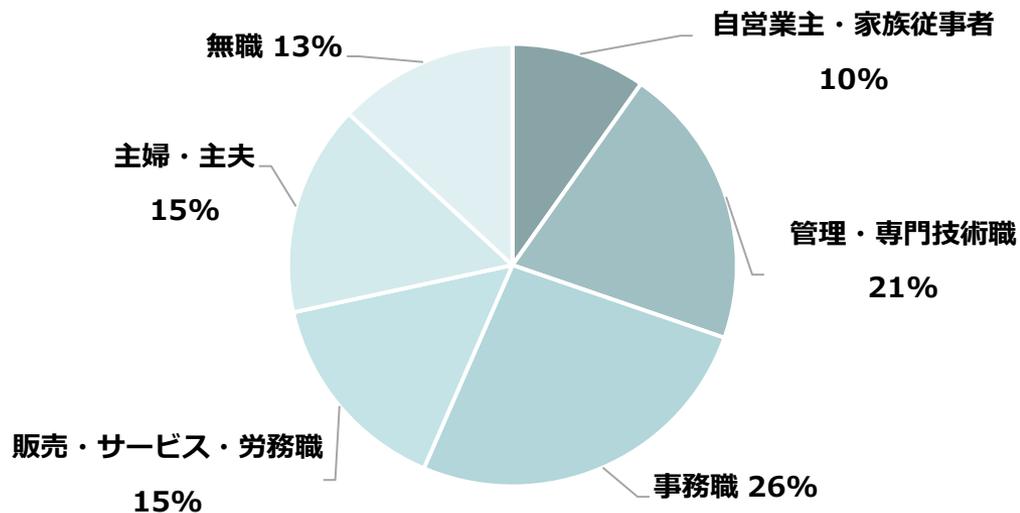
年代別



ブロック別

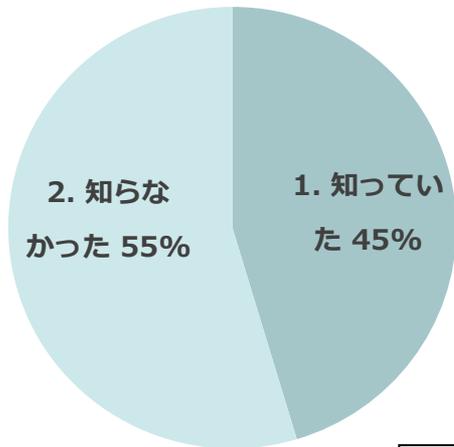


職種別

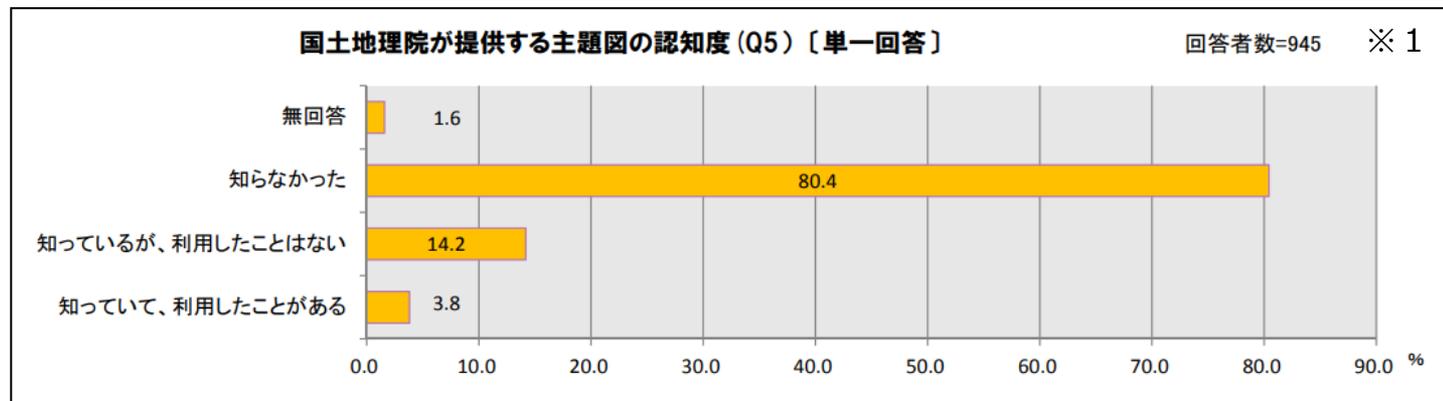


問 1)

国土地理院は、土地の災害リスクを「見える化」した地形分類情報、災害リスク情報などを地図表示できるハザードマップポータルサイト、過去の自然災害に係る事柄が記載されている石碑等をウェブ地図「地理院地図」等に掲載した自然災害伝承碑情報など、防災に役立つ主題図等の防災地理情報を整備・提供していることを知っていましたか。

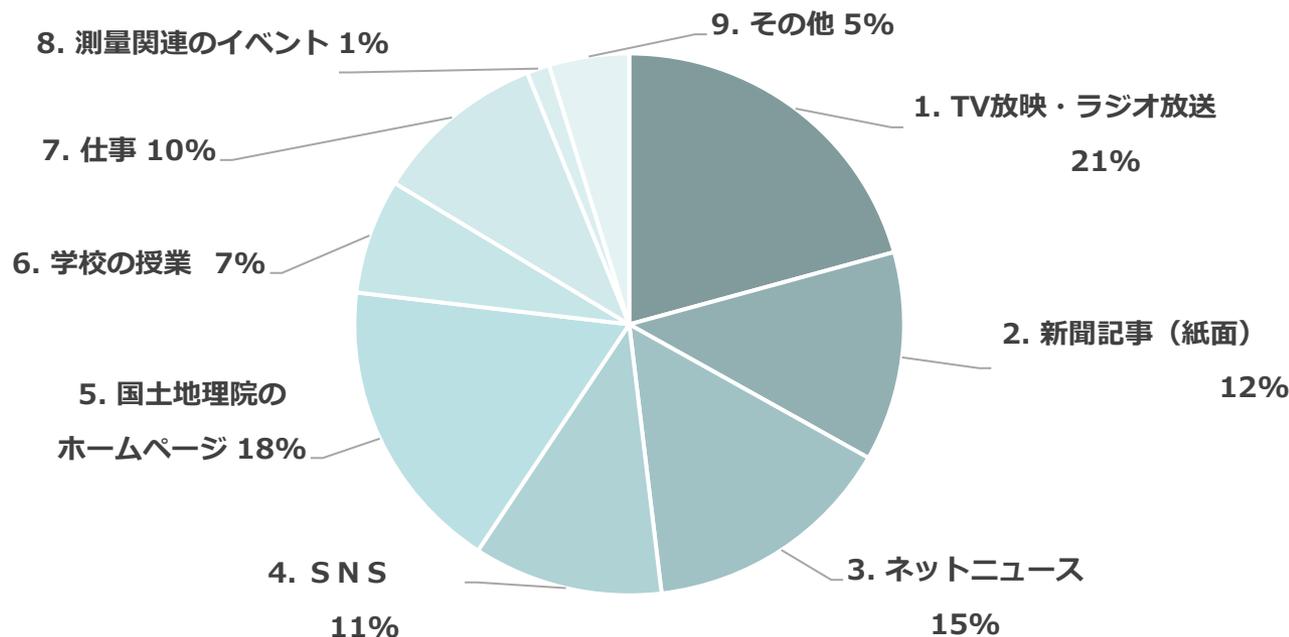


- 防災地理情報の認知度は、全体で45%でした。
- 年代別の認知度では、70代以上が52%で最も高く、20代以下が51%と続きました。
- 平成24年（2012年）に実施した同様のアンケート結果※1と比較すると、防災地理情報の認知度が18%から27ポイント増え、45%になりました。
(当時は「主題図の認知度」としてアンケート調査)



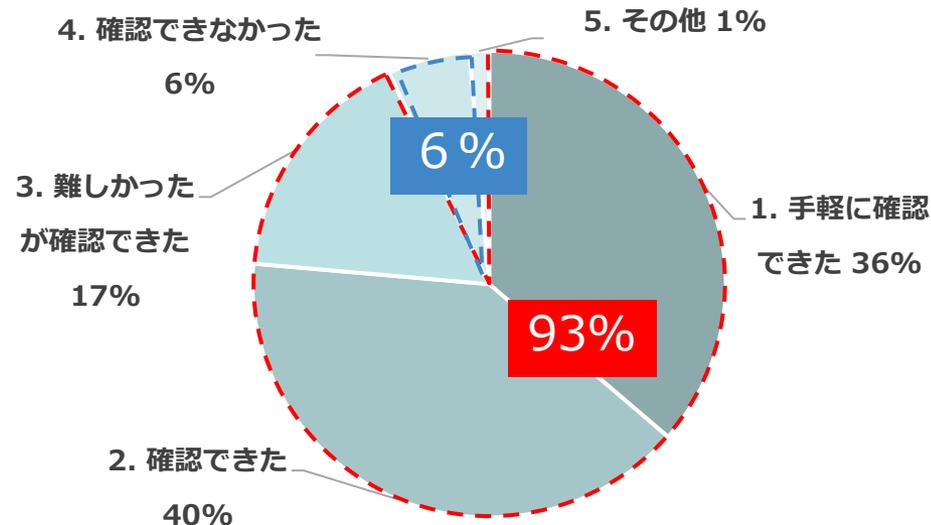
※1：国土交通行政インターネットモニター「防災地理情報に関する意識調査」（2012年9月実施）

問 2)
国土地理院が整備・提供している防災地理情報を何で知ったか選択してください。
(複数回答可) 「9.その他」を選択した場合は具体的にお書きください。



- 防災地理情報の情報入手先は、「TV放映・ラジオ放送」が21%と最も高く、「国土地理院のホームページ(18%)」「ネットニュース(15%)」と続きました。
- 「9.その他」の主な具体例(要約)は次のとおりです。
 - 地方公共団体の広報誌
 - 国土交通省のメールマガジン
 - 不動産購入の検討時

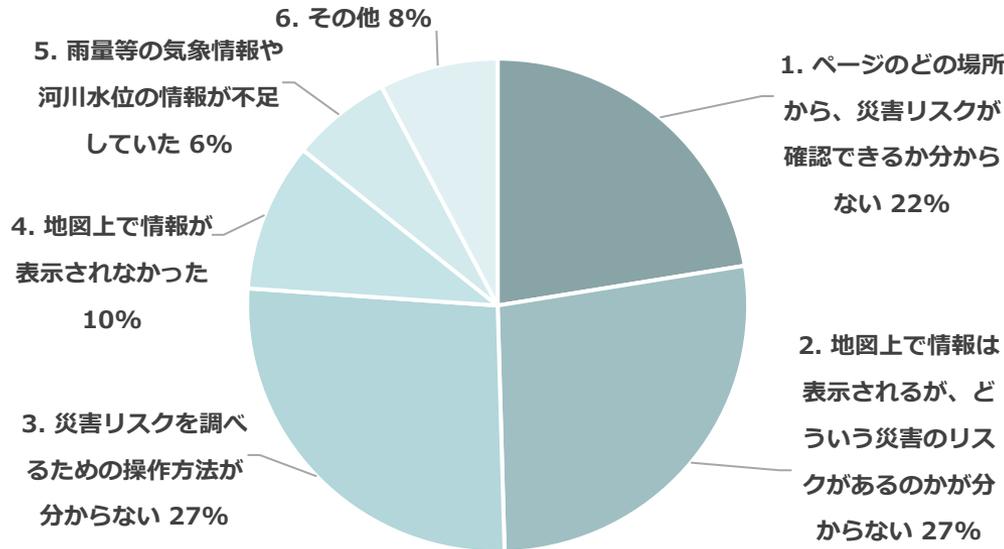
問3)
ハザードマップポータルサイトから洪水や土砂災害等の身のまわりの災害リスクの有無を確認することができましたか。「5.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。



ハザードマップ
を見る

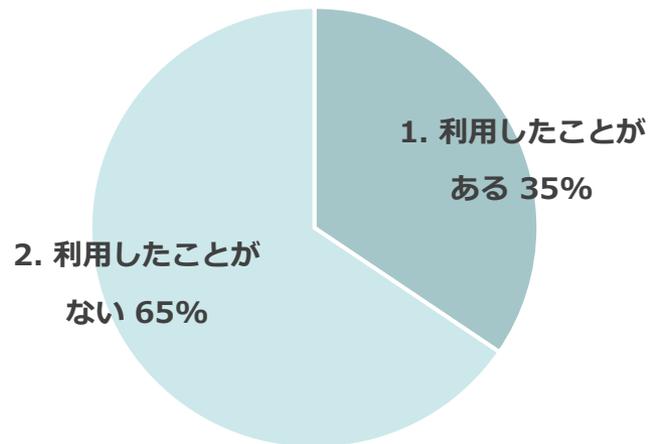
- 実際にハザードマップポータルサイトを閲覧していただいたところ、93%の方から「手軽に確認できた」「確認できた」「難しかったが確認できた」と回答がありました。
- 他方、6%の方から「確認できなかった」と回答がありました。（選択理由は次ページ問4を参照してください。）
- 「5.その他」の主な具体例（要約）は次のとおりです。
 - 居住されてる地点が何も着色されておらず非常に気になった
 - 自己位置の特定が非常にしづらい。地先のハザードがわかりづらい

問4)
確認が難しかったのは、具体的にはどのような理由でしょうか。(複数回答可)
「6.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。

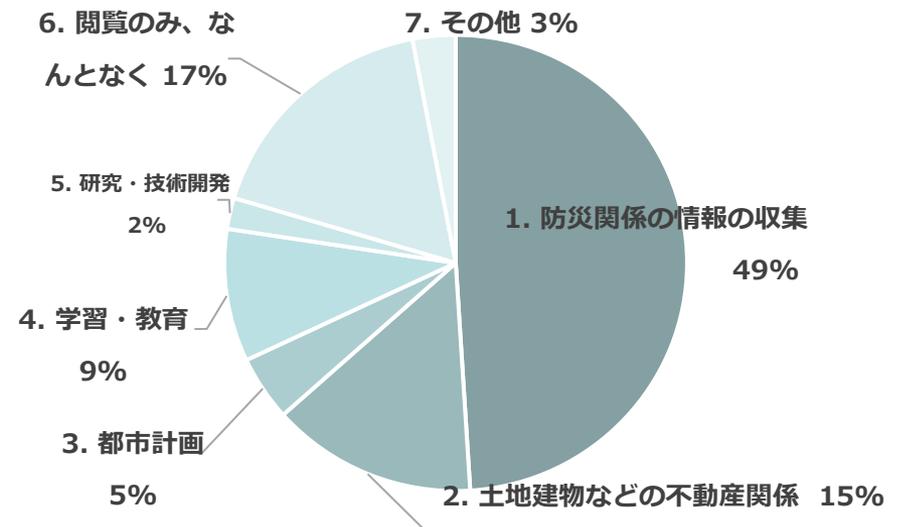


- 「難しかったが確認できた」又は「確認できなかった」と回答した方からは「地図上で情報は表示されるが、どういう災害のリスクがあるのかがわからない(27%)」「災害リスクを調べるための操作方法がわからない(27%)」「ページのどの場所から、災害リスクが確認できるかわからない(22%)」などと回答がありました。
- 「6.その他」の主な具体例(要約)は次のとおりです。
 - サイトが重い、動作が遅い
 - ユーザーインターフェースが古い、わかりづらい

問5)
過去（今回のアンケート以前）に、
ハザードマップポータルサイトを利用
したことがありますか。



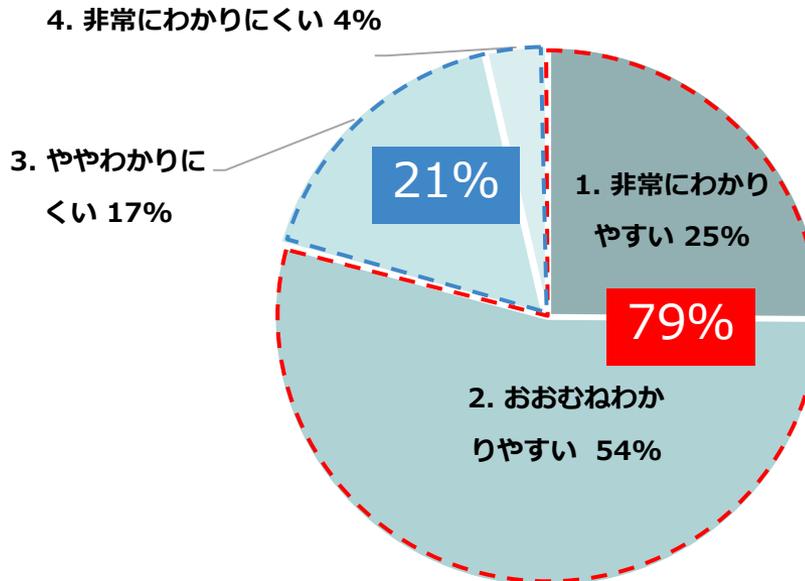
問6)
利用した際の用途を教えてください。
「7.その他」を選択した場合は、具体的
にお書きください。（複数回答可）



- 今回のアンケート以前にハザードマップポータルサイトを利用していただいたことがある方は35%でした。
- 利用していただいたことがある方のうち、約半数の方は防災関係の情報収集、15%の方は土地建物などの不動産関係で利用していただいていることがわかりました。
- 「7.その他」の主な具体例（要約）は次のとおりです。
 - 子どもの就職や大学入学で、知り合いなど全くいない土地に住むことになり、住む場所を決める時に利用
 - 自宅購入、引越しの際の物件探し

問7)
自然災害伝承碑情報の
のわかりやすさを選
択してください。

※具体的理由は、問8「**わかりやすい**」及び問9「**わかりにくい**」の回答結果

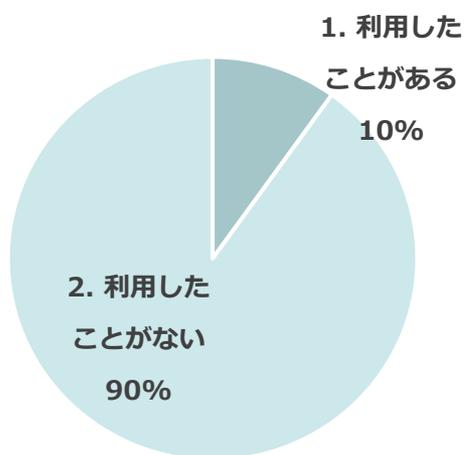


自然災害伝承碑
情報を見る

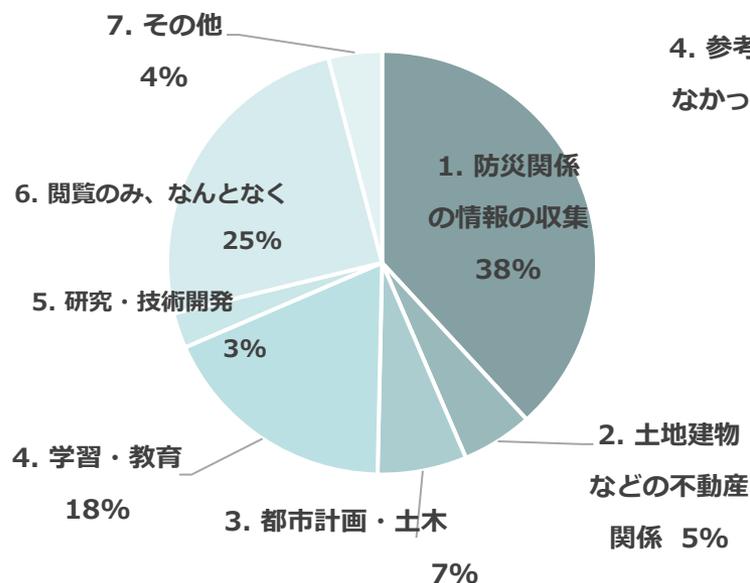
- 実際に自然災害伝承碑情報を閲覧していただいたところ、自然災害伝承碑情報のわかりやすさについては79%の方から「非常にわかりやすい」又は「おおむねわかりやすい」と回答がありました。21%の方から「非常にわかりにくい」又は「ややわかりにくい」と回答がありました。
- 「**わかりやすい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 碑の写真、文字化された銘文、災害発生年代がワンクリックですぐに理解できる
 - 近所に洪水の自然災害伝承碑がすぐに見つかり驚いた。洪水の無い地域だったし聞いたこともなかった
 - 自分の住んでいる場所のみならず、全国で見ることができるところが良い
- 「**わかりにくい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 石碑マークは災害種別ごとに変えたほうがよい
 - 地図上にはほとんど表示がないのは、未調査なのか、そのものがないのかがわからない
 - そのエリアのハザードと重ねてみて初めて有益となる情報なのではないか

自然災害伝承碑について②

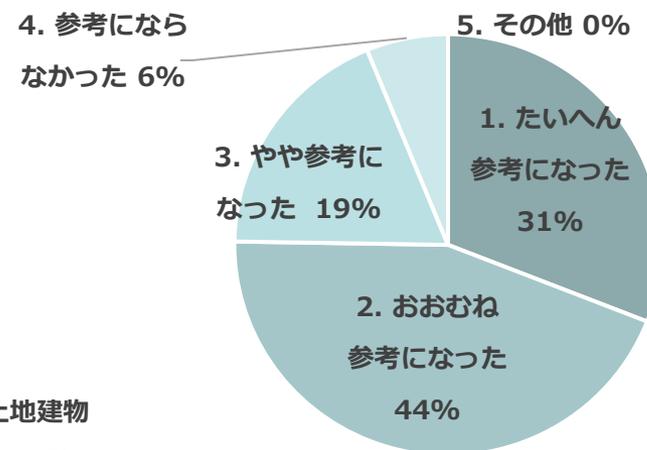
問10)
過去（今回のアンケート以前）に、自然災害伝承碑情報を利用したことがありますか。



問11)
利用した際の用途を教えてください。「7.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。（複数回答可）



問12)
自然災害伝承碑情報を利用した際、そこから参考となる情報は得られましたか。「5.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。

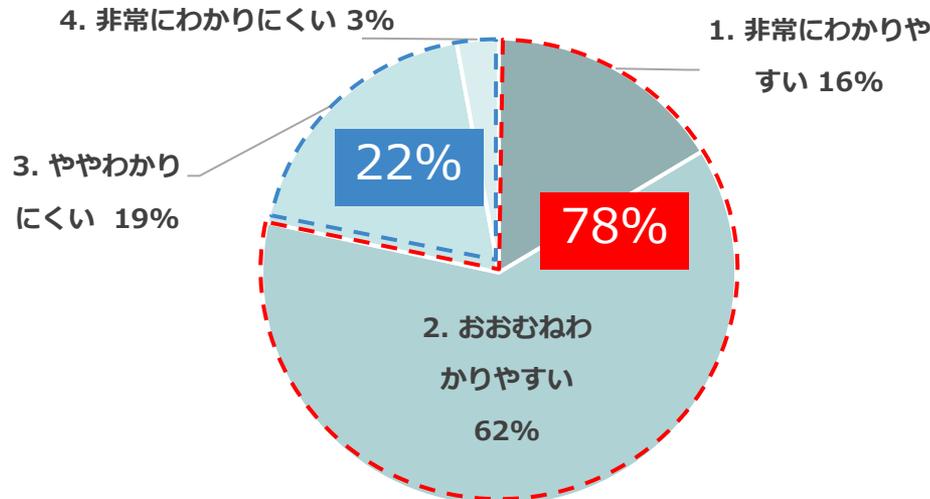


- 今回のアンケート以前に自然災害伝承碑情報を利用していただいたことがある方は10%にとどまりました。
- 利用していただいたことがある方のうち、38%の方は防災関係の情報収集、18%の方は学習・教育といった目的で利用されており、閲覧のみ、なんとなく利用していただいている方も25%いることがわかりました。
- 利用した際に「大変参考になった」と「おおむね参考になった」方は75%でした。

「地理教育の道具箱」について①

問13)
「地理教育の道具箱」
のわかりやすさを選択
してください。

※具体的理由は、問14「**わかりやすい**」及び問15「**わかりにくい**」の回答結果

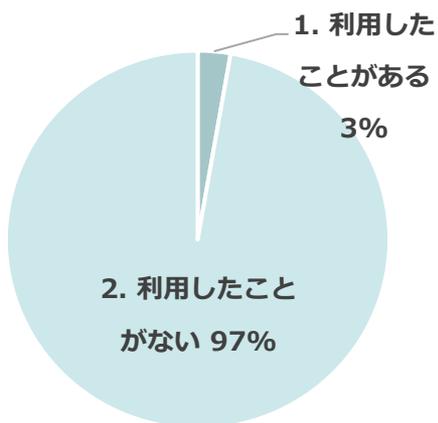


「地理教育の道具箱」を見る

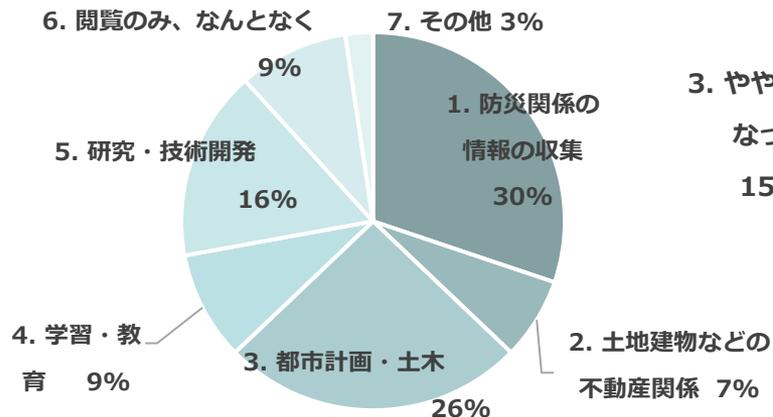
- 実際に「地理教育の道具箱」を閲覧していただいたところ、「地理教育の道具箱」のわかりやすさについては78%の方から「非常にわかりやすい」又は「おおむねわかりやすい」と回答がありました。22%の方から「非常にわかりにくい」又は「ややわかりにくい」と回答がありました。
- 「**わかりやすい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 小学生から高校生まで段階的に分けているところが理解力に合わせられる。カラーで見やすく、文字ばかりでないので小学生にも馴染みやすい
 - 地理の教員免許を保有しているが、しっかりした学び直しにもなる資料でとてもわかりやすい
 - 自治会において物凄く参考になった。内容がかなり高度な割に要約されている
- 「**わかりにくい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 文字が多くスマホでの閲覧性が非常に悪い。Webサイトのデザインも古い
 - 変にマンガ仕立てにせず、必要な情報を簡潔に示すほうがよい
 - 国土地理院トップページからこのページにたどり着けるのかわかりにくい。教育関係者に限定する必要はない

「地理教育の道具箱」について②

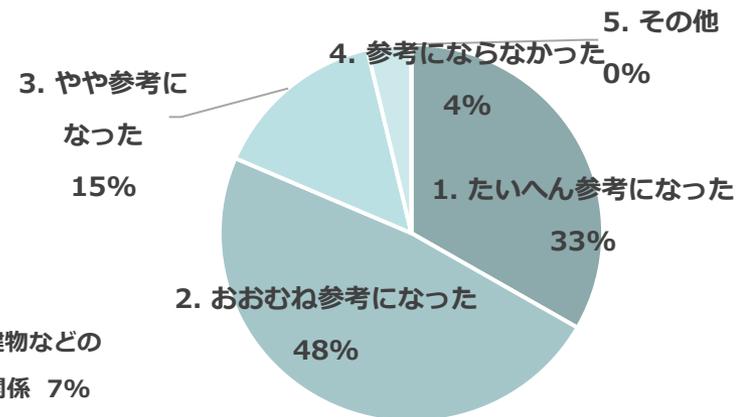
問16)
過去（今回のアンケート以前）に、「地理教育の道具箱」を利用したことがありますか。



問17)
利用した際の用途を教えてください。「7.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。（複数回答可）



問18)
「地理教育の道具箱」のコンテンツは、どの程度参考になったか教えてください。「5.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。

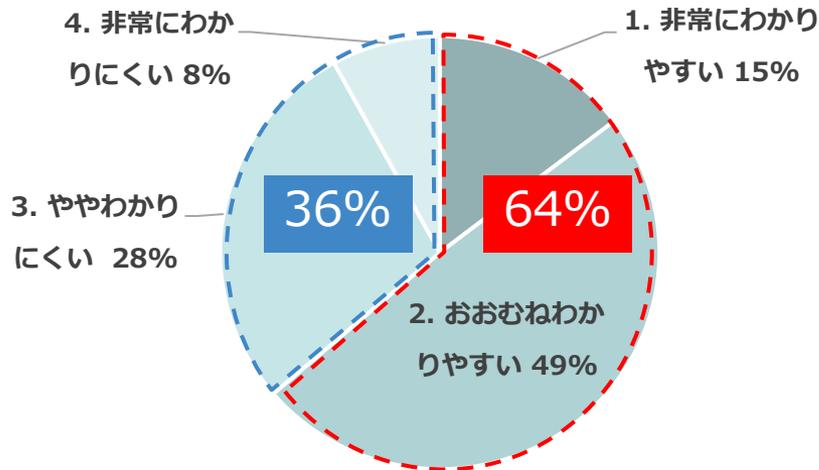


- 今回のアンケート以前に「地理教育の道具箱」を利用していただいたことがある方は3%にとどまりました。
- 利用していただいたことがある方のうち、30%の方は防災関係の情報収集、26%の方は都市計画・土木、16%の方が研究・技術開発といった目的で利用されていることがわかりました。
- 利用した際に「大変参考になった」と「おおむね参考になった」方は81%でした。

活断層図について①

問19)
活断層図のわかりやすさを
選択してください。

※具体的理由は、問20「わかりやすい」
及び問21「わかりにくい」の回答結果

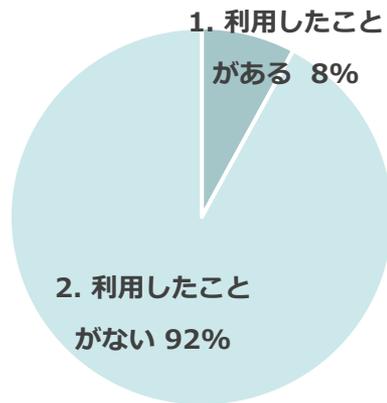


活断層図を見る

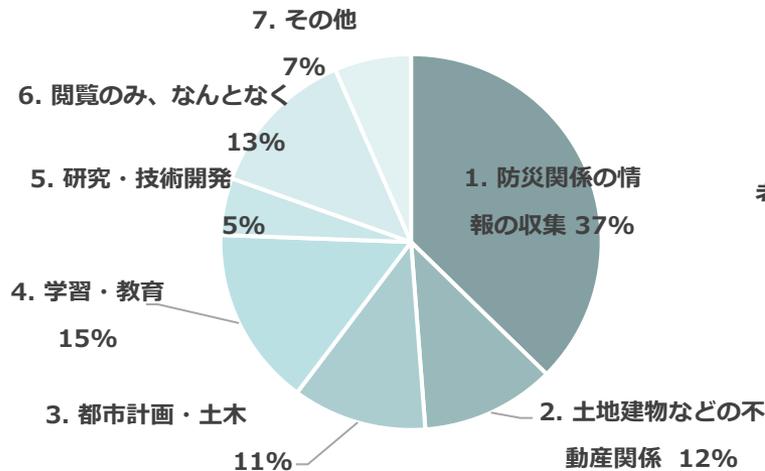
- 実際に活断層図を閲覧していただいたところ、活断層図のわかりやすさについては、64%の方から「非常にわかりやすい」又は「おおむねわかりやすい」と回答がありました。36%の方から「ややわかりにくい」又は「非常にわかりにくい」と回答がありました。
- 「**わかりやすい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 自分の住んでいる近くの活断層が見れてよい
 - 災害現場を通ったときに、どのように土砂が動いていたのかと思うことがあったが、このような図が存在する事は知らなかった。今後参考にしたい
 - 詳細な解説まで読むことができるのが良い
 - どこに活断層があるのか、またポップアップの説明がわかりやすかった
- 「**わかりにくい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 活断層が存在することは理解できるが、その影響が理解できない
 - 地図がない箇所が多いが、そこは活断層がないという理解でいいのか、それとも整備されていないだけなのかわからない
 - 重ねるハザードマップのようにデジタルマップ上に構築した方が活用しやすい

活断層図について②

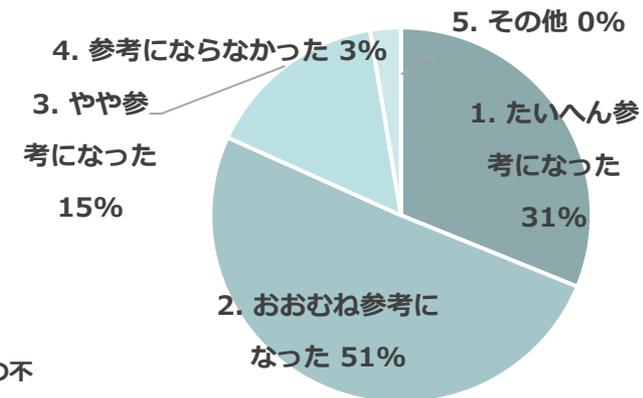
問22)
過去（今回のアンケート以前）に、活断層図（1:25,000都市圏活断層図を含む）を利用したことがありますか。



問23)
利用した際の用途を教えてください。「7.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。（複数回答可）



問24)
活断層図を利用した際、そこから参考となる情報は得られましたか。「5.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。

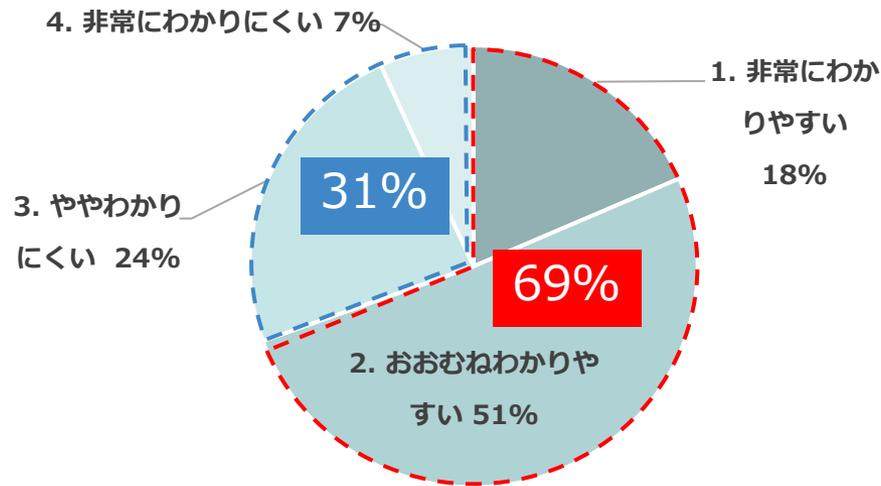


- 今回のアンケート以前に活断層図（1:25,000都市圏活断層図を含む）を利用していたことがある方は8%にとどまりました。
- 利用していたことがある方のうち、37%の方は防災関係の情報収集、15%の方は学習・教育、12%の方は土地建物などの不動産関係といった目的で利用されており、閲覧のみ、なんとなく利用している方も13%いることがわかりました。
- 利用した際に「大変参考になった」と「おおむね参考になった」方は82%でした。

地形分類（自然地形）について①

問25)
地形分類（自然地形）のわかりやすさを選択してください。

※具体的理由は、問26「**わかりやすい**」及び問27「**わかりにくい**」の回答結果

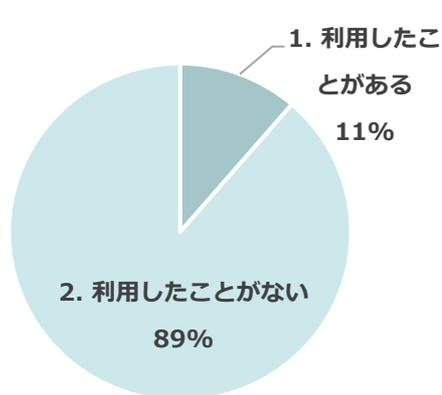


地形分類（自然地形）を見る

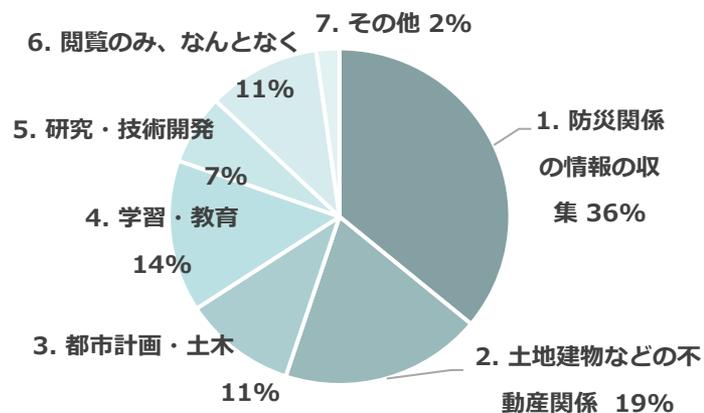
- 実際に地形分類（自然地形）を閲覧していただいたところ、地形分類（自然地形）のわかりやすさについては69%の方から「非常にわかりやすい」又は「おおむねわかりやすい」と回答がありました。31%の方から「非常にわかりにくい」又は「ややわかりにくい」と回答がありました。
- 「**わかりやすい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - ポップアップが出てきて詳細の説明があり、とてもわかりやすい
 - 専門家以外でも理解しやすく作成されている
 - 特定の地域をクリックするだけで、地域のリスクや防災対策のヒントを得られるのは有難い
 - 液状化しやすい土地がどこなのか一目でわかる
- 「**わかりにくい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - スマホだと操作の仕方がわかりにくい
 - 色分けが何を示しているのか、ウィンドウの端っこに説明があるとよい
 - 専門家以外これを見てどうするのか。その人たちのために作成しているなら、かなり有効

地形分類（自然地形）について②

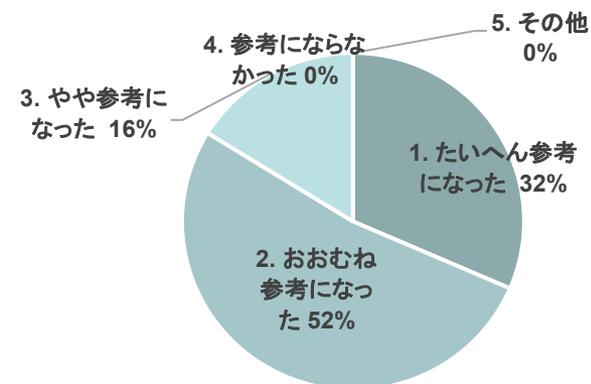
問28)
過去（今回のアンケート以前）に、地形分類情報（地形分類（自然地形）、土地条件図、治水地形分類図等）を利用したことがありますか。



問29)
利用した際の用途を教えてください。「7.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。（複数回答可）



問30)
地形分類情報を利用した際、そこから参考となる情報は得られましたか。「5.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。

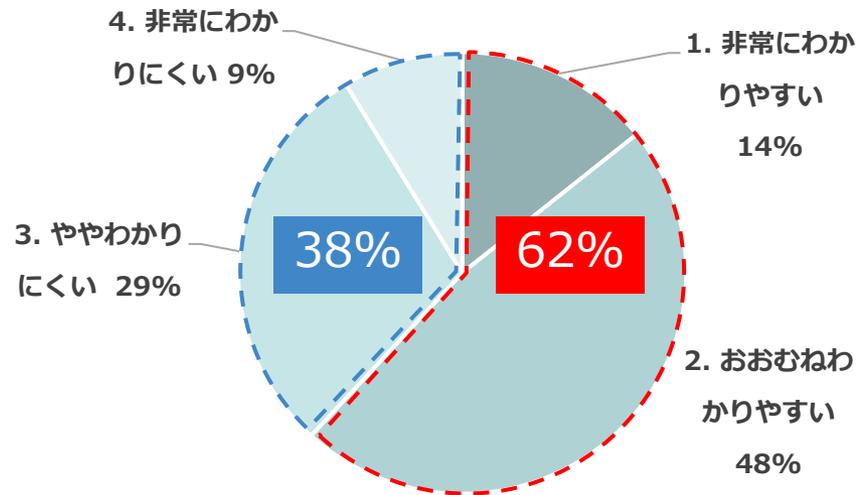


- 今回のアンケート以前に地形分類情報（地形分類（自然地形）、土地条件図、治水地形分類図等）を利用していただいたことがある方は11%にとどまりました。
- 利用していただいたことがある方のうち、36%の方は防災関係の情報収集、19%の方は土地建物などの不動産関係、14%の方は学習・教育といった目的で利用されていることがわかりました。
- 利用した際に「大変参考になった」と「おおむね参考になった」方は84%でした。

火山地形分類データについて①

問31)
火山地形分類データの
のわかりやすさを選択
してください。

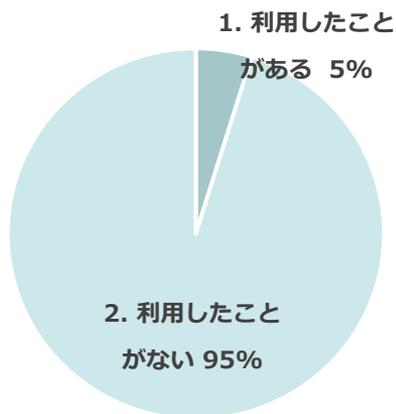
※具体的理由は、問32「**わかりやすい**」及び問33「**わかりにくい**」の回答結果



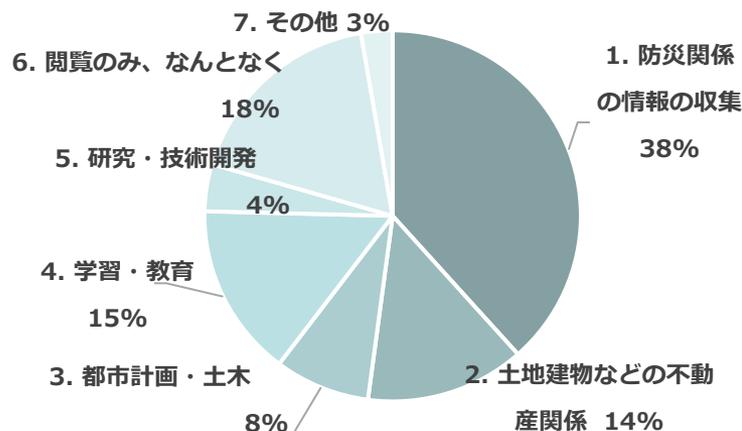
火山地形分類
データを見る

- 実際に火山地形分類データを閲覧していただいたところ、火山地形分類データのわかりやすさについては、62%の方から「非常にわかりやすい」又は「おおむねわかりやすい」と回答がありました。38%の方から「非常にわかりにくい」又は「ややわかりにくい」と回答がありました。
- 「**わかりやすい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 地元の活火山の災害程度が予想より広範囲で、避難場所の選定に役立った
 - クリックで解説が表示されてわかりやすい
 - 常時観測火山すべてではないようだがデータとして興味深い
- 「**わかりにくい**」を選択した主な具体的理由（要約）は次のとおりです。
 - 色の差が何を意味してるか、災害時にどの程度危険なのか直感的にわかりづらい
 - スマホだと見づらい
 - 知っている地域、地方に火山がないので、実感がなく想像できない

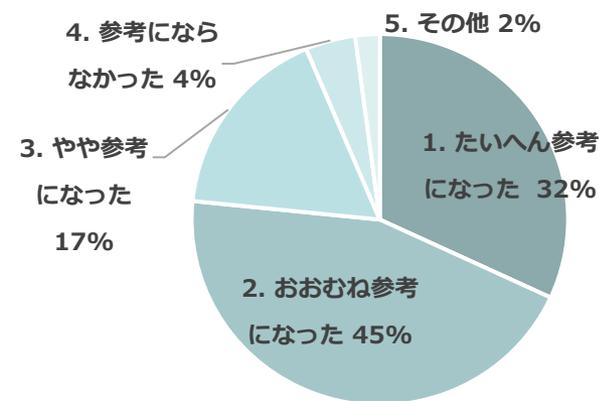
問34)
過去（今回のアンケート以前）に、火山地形分類データ（火山土地条件図を含む）を利用したことがありますか。



問35)
利用した際の用途を教えてください。「7.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。（複数回答可）



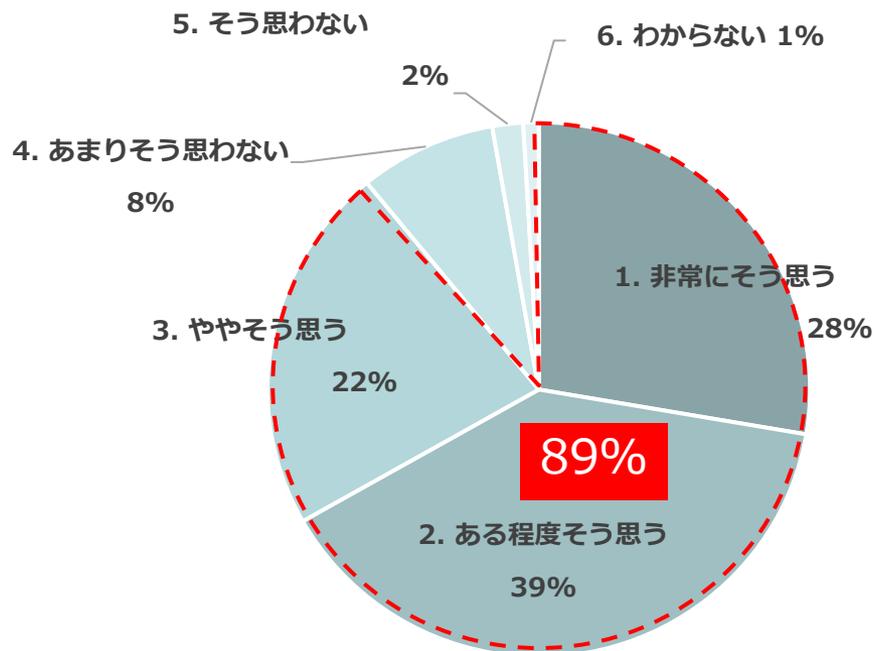
問36)
火山地形分類データを利用した際、そこから参考となる情報は得られましたか。「5.その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。



- 今回のアンケート以前に火山地形分類データ（火山土地条件図を含む）を利用していただいたことがある方は5%にとどまりました。
- 利用していただいたことがある方のうち、38%の方は防災関係の情報収集、15%の方は学習・教育、14%の方は土地建物などの不動産関係といった目的で利用されていることがわかりました。
- 利用した際に「大変参考になった」と「おおむね参考になった」方は77%でした。

問37)

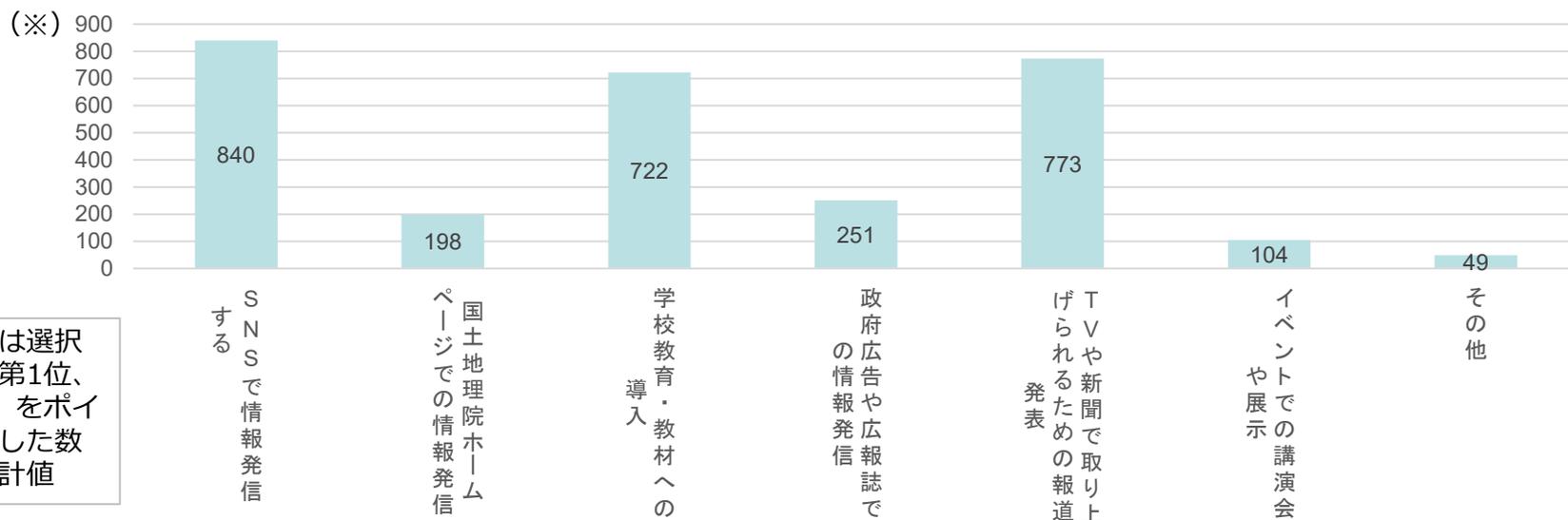
これまでの問でお伺いした防災地理情報を使って、今後の災害に備えとして身のまわりの災害リスクを把握してみたいと思われましたか？



- 今後の災害に備え、防災地理情報を使って身のまわりの災害リスク把握することを「非常にそう思う」「ある程度そう思う」「ややそう思う」と回答いただいた方は89%に上りました。
- 他方、10%の方からは今後も防災地理情報を使った身のまわりの災害リスク把握に関して「そう思わない」又は「あまりそう思わない」と回答がありました。

問38)

防災地理情報の存在や活用事例をより多くの国民のみなさまにお知らせする方法として、効果的と思われる順に、選択肢を2つお選びください。「その他」を選択した場合は、具体的にお書きください。

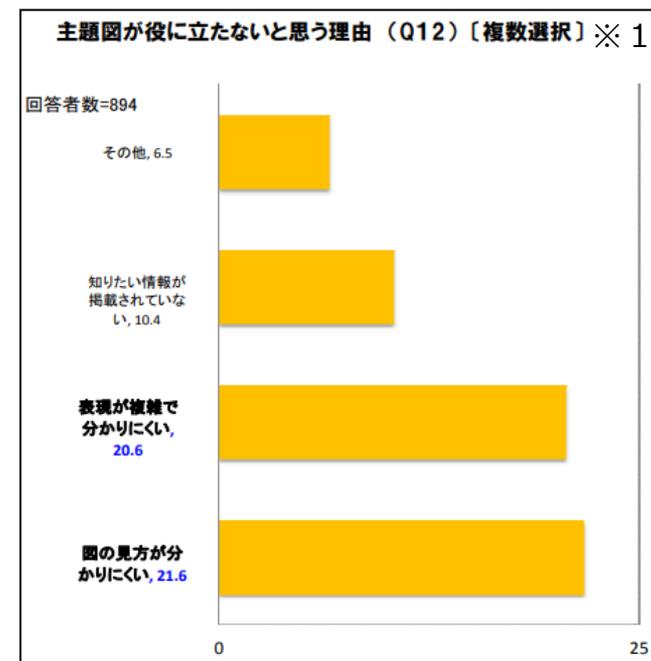


※縦軸は選択順位（第1位、第2位）をポイント化した数値の合計値

- より多くの国民のみなさまにお知らせするための効果的な方法として「SNSで情報発信する」との回答が最も多く、「TVや新聞で取り上げられるための報道発表」「学校教育・教材への導入」と続きました。
- 「その他」の主な具体例（要約）は次のとおりです。
 - テレビ番組（身近な地理や地形をわかりやすく紹介する番組等）で紹介
 - 地方公共団体のホームページや広報紙への掲載
 - 図書館での情報発信

まとめ①

- 平成24年（2012年）に実施した同様のアンケート結果と比較すると、防災地理情報の認知度が18%から27ポイント増え、45%になりました。（問1）
- TVや新聞紙等のメディアはもとより 国土地理院ホームページ、ネットニュース、SNSなど多様な媒体からの情報発信が認知度向上に繋がることがうかがえます。（問2）
- 防災地理情報の認知度は向上しているものの、今回のアンケートで各種防災地理情報を初めて使ってみたという方が多数を占めており、国民への周知に課題があることがわかります。（問5ほか）
- また各種防災地理情報の記載内容に関して、情報がわかりにくい等の課題があり、記載内容等に改善の余地があることがわかりました。（問4ほか）
- 防災地理情報の記載内容がわかりにくい等の課題があることは平成24年（2012年）に実施したアンケート結果※¹においても同様の傾向がみられました。（右図参照。平成24年当時は「主題図が役に立たない理由」としてアンケート調査）



※¹：国土交通行政インターネットモニター「防災地理情報に関する意識調査」（2012年9月実施）

まとめ②

- 今後の災害への備えとして防災地理情報を使って身のまわりの災害リスクを把握してみたいと思われた方も多数おり、防災地理情報が事前の備えとして有用な情報であると認識されていることが改めて確認できました。
(問37)
- SNSや報道発表を通じた広報活動に加え、これまで以上に学校教育関係者へ積極的に周知することが更なる認知度の向上に結びつくことが考えられます。(問38)

今回得られた課題を可能な限り改善しつつ、効果的な広報活動を通じてより多くの国民のみなさまに防災地理情報を知っていただき、災害の備えに役立つ防災地理情報の普及に努めてまいります。

【参考】

国土地理院公式ウェブサイト

<https://www.gsi.go.jp/index.html>



国土地理院公式ウェブサイト 主題図（地理調査）のページ

<https://www.gsi.go.jp/kikaku/index.html>



防災地理情報に関するX（旧Twitter）

国土地理院応用地理部の公式アカウント

https://twitter.com/gsi_oyochiri

